

インフォメイト

Vol.24
November
2019

【特集】

ウイルスを原因とするのどの癌が増えています

地域のがん看護ケア向上に向けた認定看護師の取り組み

公立昭和病院DMAT(災害派遣医療チーム)の活動について

東京都アレルギー疾患医療専門病院(小児領域)に指定されました

市民公開講座を開催しました

分娩費用改定のお知らせ

のどにできる癌の多くは、飲酒やタバコが原因とされてきました。実際多量の飲酒、喫煙をされている方は癌になる危険が4〜5倍に上がる、という統計があります。これらの癌は、喫煙者の減少により徐々に減りつつありますが、近年別の原因で生じるのどの癌が増えつつあります。それは「中咽頭癌」と言って、主に扁桃腺や舌の奥(舌根)にできる癌です。中咽頭癌は、現在日本で年間約2000人の方が新たに診断されていて、その内、約半数が飲酒や喫煙ではなくHPV(ヒト乳頭腫ウイルス)というウイルスの感染が原因であることが分かっています。子宮頸癌の原因としても知られており、飲酒や喫煙をしない若い方30〜40歳代の方もいらっしゃいます)にもみられるようになっていきます。

HPVによる中咽頭癌は、比較的治りやすいという特徴がありますが、進行してしまうと治りにくいのは確かです。治療も大変になります。治りやすいから飲酒や喫煙による中咽頭癌に比べて治療の手をゆるめてもよい、という根拠は今のところなく、現在検討されているところです。(また、HPVが原因でも重度の飲酒喫煙者はそうでない方に比べ、治りにくいということがあるかっています。早期発見が大事ですので、お酒もタバコもやらないという方でも、のどが腫れている感じがしたり、首にしこりが触れたりするような場合はこの病気の可能性がありますので、耳鼻咽喉科を受診されることをお勧め致します。もし癌と診断された場合、のどの機能をなるべく落とさず病気を治す治療をする事を心がけておりますので、ご相談いただければと思います。



ウイルスを原因とするのどの癌が増えています

耳鼻咽喉科部長 吉田 昌史

耳鼻咽喉科の扱う領域は耳、鼻、のどと幅広く、疾患としても急性炎症や、めまいに対する内科的治療から、副鼻腔炎や中耳炎、声帯ポリープに対する外科的治療まで多岐にわたります。その中に癌は多くはありますが、口の中やのどに癌ができることがあり、耳鼻咽喉科(頭頸部外科)という標榜をしているところもあります)が主に治療に携わっています。



開会して間もなく、DMATカーを取り巻くように、人が集まりました。

当日は、初めての参加ということで不安もありましたが、始まるとそのような心配は無用でした。もの珍しいDMATカーの赤色灯に引き寄せられるかのように、多くの方が、朝から足を運んでくださいました。1日を通して、400人程度の方が来場してくださったと思いますが、ブースによっては20人以上の列が出来る時間もありました。職員も総出で休みがほとんど取れない状態と、うれしい悲鳴が各ブースから聞こえてきました。DMATカーや白衣ブースには、絶えることなく子供の笑顔があり、将来の昭和病院職員を目指すお子さんも現れました。また、AED講習の

地域医療連携室では、今後も構成市の市民まつりに参加し、皆様に公立昭和病院を知っていただくよう、活動を続けていきたいと思います。

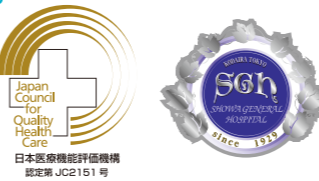
市民まつりで当院のブースを見かけましたら、是非、お立ち寄りください！



子供用の白衣が足りません。職員も、大忙しです！

《公立昭和病院の理念と方針》

- 【理念】一人ひとりの命と健康を守り、医療の質の向上に努め、熱意と誇りを持って地域社会に貢献することを目指します
- 【方針】
- 1 地域医療支援病院として地域連携を推進します
 - 2 科学的根拠に基づいた医療を提供します
 - 3 急性期病院として高度専門医療、救急医療を実践します
 - 4 がん拠点病院としてがんの予防から治療までを担います
 - 5 信頼される優れた医療人を育成します
 - 6 健全な病院経営に努めます



公立昭和病院
〒187-8510 東京都小平市花小金井8-1-1
tel.042-461-0052 fax.042-464-7912
<http://www.kouritu-showa.jp/>

地域医療連携室だより!

公立昭和病院が、小平市の市民まつりに参加しました

市民の皆様の中には、当院が、構成市の設立による公立病院であることを知らない方や、アクセスが悪いイメージが先行し、身近な病院とは、ご存知ない方もいらっしゃるのではないのでしょうか？



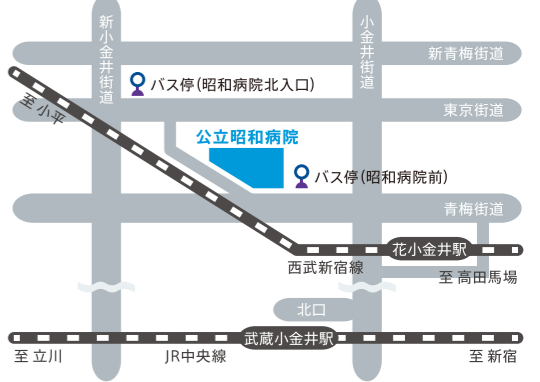
どのご家族も、真剣に話を聞いていました。動画を取られる熱心な方も...

ブースでは、若いご家族に囲まれ、職員が白衣の膝を真っ黒にしながら蘇生方法を説明していました。皆さん真剣な面持ちで体験していました。市民の皆さんからは、「良い内容で勉強になったよ」、「昭和病院が、災害拠点病院だと知らなかったよ。頼もしいねえ。」とお声をいただきました。また、「綺麗な施設で人間ドックもやっているってことを、パンフレットを見て初めて知りました。さらには、「乳幼児の蘇生法も聞いたら、分かりやすく丁寧に教えてくれました。地域に昭和病院があつて安心しました。」と、皆さん職員とのふれあいを通して、新しい発見があつた様で、目を輝かせながらお話ししてくださる方も多くいらっしゃいました。



当院は、東京都多摩地域の小金井市、小平市、東村山市、東久留米市、清瀬市、東大和市、西東京市の7市で構成されている昭和病院企業団により運営されています。標榜診療科は全31科。休日・夜間救急医療をはじめ、高度・専門医療、予防医学的事業、地域医療センターとして高い機能を発揮して、地域の医療需要と信頼に答えています。

Access





地域のがん看護ケア向上に向けた認定看護師の取り組み

皮膚・排泄ケア認定看護師・がん看護専門看護師 小湊 裕美子

公立昭和病院看護部では、13分野の認定看護師25名(特定行為研修修了者3名)、専門看護師1名が各分野でチームを構成して活動しています。チームとして活動することで、専門的な知識・技術を発揮し、患者さんやご家族の皆様、地域の医療者の方々に、より質の高い看護実践が提供できるのではないかと考えています。その中で今回は、がん看護チームの取り組みについてご紹介いたします。

がん看護チームは、緩和ケア認定看護師3名、がん性疼痛看護認定看護師1名、がん化学療法看護認定看護師1名、認知症看護認定看護師2名、皮膚・排泄ケア認定看護師4名(うち1名は、がん看護専門看護師)の計11名のメンバーで構成されています。

院内活動では、看護スタッフの教育や、患者さんやご家族への支援に日々取り組んでいます。院外活動としては、地域のがん看護ケア向上のために、「明日から実践できる専門的な知識とスキルを学ぶ」ことをコンセプトとし、看護師向けの研修会を企画し開催しています。例年、年に3回程度の開催でしたが、「もっと研修会を多く企画してほしい。」「緩和ケアについても知りたい。」「等の要望が多数あり、地域のニーズに応える形で2019年度は年8回の研修会を企画しました。内容は、疼痛コントロール、認知症ケア、高齢者のがん化学療法、スキンケア・褥瘡ケア、アドバンスケア・プランニング等です。研修会は講義で知識を得るだけでなく、演習やディスカッションを通して実践的なケアが習得できる内容になっています。参加した方からは、「明日からの実践で役立てられる。」という感想を多くいただきました。

「アドバンスケア・プランニング(ACP)への取り組み」

「アドバンスケア・プランニング」最近よく耳にする言葉です。日本語だと「人生会議」と言われていますが、あまりイメージがわかないかもしれません。

アドバンスケア・プランニングとは、将来の意思決定能力の低下に備えて、今後の治療やケア、療養に関する意向、代理意思決定者などについて患者さんやご家族、医療者があらかじめ話し合うプロセスのことです。もしもの時のことをあらかじめ考え、話し合っておきましょうということ。終末期医療に望むことや、どんな治療を受けたいか、受けたくないか、大切にしたいこと等を自分一人の考えでなく、ご家族や医療者と共に考えるこのプロセスが重要なのです。

がん看護チームでは、アドバンスケア・プランニングを意識しながら患者さんやご家族の支援を行っています。また、がん患者さんだけでなく、緩和ケアが必要な慢性疾患の患者さんに対しても大切な支援だと考えています。この取り組みは、院内のみならず地域の医療者の方々と共有していかなければ前進していきません。地域のがん看護ケアの向上を図るために、地域との連携をさらに深めていきたいと考えています。



東京都アレルギー疾患医療専門病院(小児領域)に指定されました

小児科 医長 大場 邦弘

この度、当院小児科が、アレルギー疾患対策基本法という法律(平成27年12月25日施行)に基づき、東京都より『東京都アレルギー疾患医療専門病院(小児領域)』に指定(平成31年2月27日付)されました。この指定は、都内のアレルギー疾患を有する方が、状態に応じて適切な医療を受けられるよう、専門的なアレルギー疾患医療を提供する医療機関の診療ネットワークを構築することが目的です。当院の他に、小児領域において多摩地域で指定された病院は、拠点病院として東京都立小児総合医療センター(府中市)、専門病院としては東京慈恵会医科大学附属第三病院(狛江市)、東海大学医学部付属八王子病院(八王子市)のみであり、当院小児科は北多摩エリアを担うことになりました。

専門病院の役割は、診断が困難な症例や、標準的治療では病態が安定しない重症・難治性のアレルギー疾患患者に対し、専門的な医療を提供することです。当院小児科ではこれまで、構成7市(小金井市・小平市・東村山市・東久留米市・清瀬市・東大和市・西東京市)に所在する病院小児科の中で唯一の日本アレルギー学会認定教育施設(正施設)として、アレ



注射手技の練習の様子



講習会では講義と実践を合わせて行っています

ルギー専門医と小児アレルギーエドクターの資格を持つ看護師・管理栄養士が中心となり、科学的知見に基づくアレルギー疾患医療を提供してまいります。また、地域貢献の一環として、構成市の子どもを預かる施設を対象に、生命を脅かす危険な状態になることもあるアナフィラキシーに対応するための、当院小児科医師に直接相談できる『アナフィラキシー対応ホットライン』の運用や、アレルギー疾患についての講習会を定期的に開催しております。

今後、北多摩エリアにおいて、地域の医療機関・子どもを預かる施設と顔の見える連携を図りながら、東京都におけるアレルギー疾患医療の充実に貢献してまいります。



公立昭和病院DMAT(災害派遣医療チーム)の活動について

DMAT業務調整員 井部 昌彦

【はじめに】

元号が令和に変わりましたが、年々異常気象による自然災害が発生しており、東京首都圏も先の台風被害により、現在も懸命な復旧作業が続けられています。災害時に、その地域の拠点となる災害拠点病院(公立昭和病院もその一つ)では、自然(地震・台風による風雨)災害をはじめ、テロ災害、大規模事故などの都市型災害の現場において、救命処置などを行う専門の研修を受けた救急医療チーム(DMAT)が組織されています。

「DMAT」普段は耳慣れない言葉だと思えます。DMATとは、「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」で、災害時医療派遣(連携)チーム(Disaster Medical Assistance Team)の頭文字をとってDMAT(ディーマット)と呼ばれ、医師、看護師、業務調整員(医師、看護師以外の医療職及び事務職員)の1チーム4〜6名で構成されています。

平成16年4月に東京都により東京DMATが、平成17年4月には厚生労働省により日本DMATが発足しました。公立昭和病院は、平成9年2月に災害拠点病院(地域災害医療センター)の指定を受け、平成19年3月に東京DMAT指定病院に、東京都内で17番目に指定されました。【公立昭和病院DMATの活動状況】

現在、公立昭和病院の東京DMAT隊員数(カッコ内は日本DMATとのダブルライセンスの隊員数)は、医師6(4)名、



市民公開講座を開催しました

昭和病院では、皆さんに病気の予防や治療について正しく理解していただくとともに、当院で実際に行われている治療をご紹介していく機会として、市民公開講座を開催しています。去る10月19日に第27回目の市民公開講座を、当院の在る小平市の「ルネこだいら」において小平市、小平市医師会のご協力をいただいで開催いたしました。当日は、小林正則小平市長をはじめ、多くの市民の方にお越しいただくことができました。この場を借りてお礼を申し上げます。

今回は、第一部では「頭頸部がんにについてくび・のど・口の中のがん」と題して、当院の耳鼻咽喉科部長吉田昌史医師が、第二部では「今日から始める脳卒中予防について脳神経内科医長深尾絵里医師が講演を行いました。第三部では、「なぜ今腎臓と腎臓病が注目されているのか?」知っていますか?腎臓病の発見方法とその治療法」と題して、小平北口クリニックの小沢尚院長よりご講演をいただきました。



次回、第28回は令和2年2月15日午後17時30分～19時30分まで、市報やホームページにて詳細をご案内いたしますので、ご興味いただけましたら、ぜひご来場いただければと思います。



分娩費用改定のお知らせ

当院は、地域産産期母子医療センターに指定されており、MFCU(母体胎児集中治療室)、NICU(新生児集中治療室)、GCU(新生児成育治療室)が設置されています。この度、令和2年1月1日の0時の分娩より、下記のとおり分娩費用の改定を行います。



	構成市 (※1)	普通分娩		帝王切開	
		時間内	時間外	時間内	時間外
	単胎	月曜～金曜の8:30～17:00(休日・祝日除く)	左記以外の時間	月曜～金曜の8:30～17:00(休日・祝日除く)	左記以外の時間
	双胎	¥510,000	¥640,000	¥400,000	¥580,000
	単胎	¥640,000	¥790,000	¥540,000	¥740,000
	双胎	¥550,000	¥690,000	¥450,000	¥640,000
	単胎	¥700,000	¥870,000	¥620,000	¥830,000

★上記金額は一般的な金額であり、入院期間・処置内容により費用が大幅に追加になることもあります。
★当院では原則『出産一時金の直接支払制度』をご利用いただいております。
(※1)構成市…小平市・東村山市・東久留米市・清瀬市・小金井市・東大和市・西東京市に住民票がある方
(※2)構成市以外…上記以外に住民票がある方
(※3)時間内…平日(月曜～金曜)8時30分～17時まで(祝日除く)
(※4)時間外…上記以外すべての時間
※時間内・時間外の区分は分娩された時間(赤ちゃんが生まれた時間)が基準となります。



看護師26(6)名、業務調整員9(3)名の総勢41(13)名が登録されています。DMAT隊員は、平時には病院内での日常業務を行っています。災害発生時には、いつでも出動できる体制を取っています。今年10月には、台風15号の影響で県内全域が停電となった千葉県へ隊員を派遣し、木更津市にある君津中央病院を拠点に、被災した病院支援、被災地外への患者搬送を行いました。即位の礼の期間においては、対テロ災害対策医療拠点本部要員として、テロ災害が発生した時の医療活動支援の調整役として出動いたしました。また、当院の近隣で発生した事故(電車下敷き、機械巻き込みなど)にも東京消防庁と協力して出動し、救済活動を日夜行っています。当院には東京DMATカー(写真も配備され、有事の際には現場に急行します。地域の防災訓練や市民祭の際にも車両の見学ができますので、是非ご覧になってください。各隊員は、地域の防災訓練や技能維持研修に参加し、日々鍛錬を重ねています。地震、洪水、鉄道事故等、災害は起きないことが一番ですが、日頃から準備を行い「一人でも多くの命を救う」ことを念頭に全隊員が活動しています。